

平成30年度 東京都立第三商業高等学校経営報告（定時制）

1 平成30年度の取組と自己評価

（1）教育活動への取組と自己評価

① 学校運営

- ・生徒のニーズにあった選択による少人数授業（3学年商業選択・4学年普通科選択・4学年課題研究）、習熟度別授業（2学年簿記・3学年財務会計）を今年度も実施し、検定合格へ向けた具体的な目標設定や、商業科選択・普通科選択等、生徒の興味関心に応じて学習に対応することができた。
- ・段階的かつ系統的な学習指導と資格検定指導に関しては、2学年の簿記では、習熟の進んだクラスの生徒は、全員が簿記検定3級に合格することができた。習熟下位クラスの生徒も、3学年で習熟度別展開を継続実施する財務会計において、3級合格を目指して指導を継続する。
- ・教育課程のさらなる充実のため新教育課程の検討を進めるために、プロジェクトチームによる検討を進めた。また、教員の資質及び授業力の向上に関してもプロジェクトチームによる検討を進め、校内研修を実施し、生徒の学習意欲の向上に努めることができた。
- ・地域連携の促進については、公開交通安全教室や公開講座など地域へ学校を公開する取り組みを行うことができたが、地域の教育力を具体的に活用した取り組みには発展できなかった。

② 学習指導

- ・「わかる授業」を目指し、授業ごとに本時の学習目標を提示するなど、中学校段階の学習等基礎的基本的な学力の定着を図りながら学力向上に努めた。
- ・基礎・基本の充実のための学力向上推進計画の実施及び主体的学習態度を育成するために、プロジェクトチームにより授業改善に取り組んだ。生徒による授業評価アンケート結果を全体にフィードバックするために、校内研修を実施し、学力向上推進へ向け、課題の共有化を図り全体で取り組んだ。
- ・学習意欲を高めるための基本レベルの資格取得と一般教養試験への対応として、習熟度別授業により確実な学力向上、及び一般教養としての漢字の学習に全校で取り組んだ。基本レベルの資格取得等への対応については、卒業時まで簿記、ワープロ、情報処理等の3級以上を全員が取得することを目標に指導を行っている。

③ 生活指導

- ・基本的生活習慣の確立のため全教職員による組織的な生活指導体制を構築するために、拡大学年会を実施した。組織的に連携して生活指導に取り組むことにより、情報の共有化が進み、生徒の課題を全教職員で共有することができ、中退者数の防止が進んだ。
- ・生活指導統一基準に基づく指導推進のため、挨拶の励行と家庭と連携した無断欠席や遅刻に対する指導体制を構築し授業規律の確立にもつながる指導を実施することができた。随時の家庭連絡や家庭と連携した無断欠席や遅刻に対する指導体制の構築により、無断欠席・無断遅刻が減少した。また、挨拶励行や授業中のスマホ無断使用への指導等、授業規律確立に意識が図られた。
生徒出席率は、1学年93.9%(昨年91.6%)、2学年86.5%(昨年96.2%)、3学年96.8%(昨年80.7%)、4学年87.8%(昨年86.5%)であった。また、全体で皆勤者2名、(前年度1名)であった。進級・卒業率は、1学年100.0%(昨年83.3%)、2学年90.9%(昨年91.7%)、3学年100.0%(昨年80.0%)、4学年100.0%(昨年100.0%)、全体で97.8%(昨年90.9%)であり、退学者は1名、転出者0名であった。
- ・自尊感情を醸成し自殺対策に資する教育を推進するため主体的な奉仕等体験活動として、生徒会による野菜や花などの植物栽培、及び「人間と社会」の学習において高齢者体験や手話学習に取り組んだ。

④ 進路指導

- ・キャリアガイダンスの組織的かつ計画的な実施のため、木場ハローワークと連携した職業指導やビジネスマナー指導を行い、社会人となるための意識を醸成した。4学年進路については、進学0名(昨年4名)、就職7名(昨年8名)、未定5名(内アルバイト等3名、昨年5名)であった。

- ・進路を見据えた多彩で専門性と実践力の深化のため、進路指導部と学年・教科の連携による進路学習を推進し高度資格取得へ向けた指導の充実に取り組んだ。

高度資格取得のための指導の充実については、選択授業はもとより放課後等での補習等の指導を行い、全経簿記2級6名(昨年9名)、文書デザイン1級6名・2級2名、ホームページ作成1級6名(昨年1名)・2級2名(昨年6名)、情報処理技能表計算1級1名(昨年0名)・2級1名が合格した。

⑤ 特別活動・部活動

- ・4年間を見通した年間ホームルーム指導計画については、4学年で実施する修学旅行のあり方について、学年間での共有化を図った。LHRにおいて、学校行事の準備や修学旅行の行き先の検討など、学級としての活動時間に費やすように改善が進んだ。また、拡大学年会を活性化させ、分掌と担任が連携し年間指導計画によるHR活動の充実を図った。
- ・生徒会や生徒の委員会組織を活性化させ学校生活に対する意欲を向上させるため、特色ある学校行事や特別活動の充実を図った。生徒会を中心として、各行事のプログラムや運営を行い、これまでとは違った工夫した行事とすることができた。新入生歓迎会、百人一首大会、師走祭、スポーツ大会、予餞会において生徒会組織が主体となって運営実施した。
- ・部活動の活動日を曜日ごとに指定し、複数の部活動に参加することができるようにしたことで、部活動参加率が延べ人数で100%を超えることとなった。これまであまり、対外試合には参加していなかった都大会や全国大会に出場した。自転車競技女子で、全国優勝することができた。オリンピック・パラリンピック教育にもつながるよう、昨年度に引き続き、体を動かすことの楽しさを感じさせるために、バランスボールによるエクササイズに学校行事として、全校生徒で取り組んだ。

⑥ 安全・健康指導

- ・いじめ未然防止のため日常的な生徒観察に取り組むよう、繰り返し教職員に周知を行った。また、スクールカウンセラーの活用による相談機能を充実させるために、1学年・2学年の生徒の全員面談を実施した。
- ・避難訓練を工夫し、全校生徒で一時避難場所及び広域避難場所への移動訓練を実施した。消防署と連携して、災害時の救急対応など総合的な防災訓練を実施した。
- ・健康で安全な学校環境の確立のため、教職員による校内巡回等を実施した。
- ・自立的な生活管理と健康管理及び給食等における食生活のマナーや食事を通じたコミュニケーション能力等人間関係の能力形成のため、食育講話の実施や保健室指導に取り組んだ。

⑦ 広報・募集活動

- ・広報・募集活動を活性化させるために、プロジェクトチームで活性化計画を作成し、地域の中学生に校内を開放して夏祭り・秋祭りを実施した。また、学校紹介動画を東京都の協力で生徒会生徒により作成し、東京動画に掲載した。
- ・授業公開、学校説明会、中学校訪問、ホームページ等募集活動については、例年と同じ活動に止まった。来校した中学生保護者は、10組程度であった。結果としては、学力選抜の応募状況は、一次募集応募者6名(0.2倍)、二次募集応募者3名(0.13倍)であった。

⑧ 図書・視聴覚指導

- ・教養と知識、技術の定着と生涯学習への基礎づくりのために、図書館の活用をさらに推進し、読書習慣の定着が図られるよう継続して指導する。読書習慣を定着させるために、図書室司書と連携して図書室の利用促進に努めた。授業で図書室を利用することにより、生徒が図書室に足を運ぶ機会が多くなり、図書の貸出数増加につなげることができた。
- ・生涯学習への基礎づくりとして、本校の特色でもある資格取得を積極的に奨励した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

① 教育課程の改善と学校運営

- ・中学校段階等学習内容の学び直しについて、国・数・英を中心に各教科で配慮した授業を実施し、基礎的基本的な学力の確実な定着を図るよう努めた。これにより、生徒の学習意欲も高まり、学校評価アンケートにより学習に対する満足度も向上した。
- ・新学習指導要領に対応するための教育課程編成へ向けたプロジェクトチームで、学校の特色や生徒のニーズを検討し、新学習指導要領について調査研究を行った。新教育課程編成に向け、今後グランドデザイン策定及び教育課程編成に取り組む。

- ・学校運営連絡協議会との連携を図り、学校運営上の課題解決の具体策等について検討した。昨年からの課題でもある授業規律については、協議委員が授業見学を行い、携帯電話の使用等について改善が図られた。
- ・体罰及び不適切な指導の禁止について教職員に周知し研修等を実施して徹底を図った。
- ・教科「人間と社会」を活性化させるために江東区福祉連絡協議会と連携し外部講師を招き、手話と高齢者福祉を中心に、体験的な学習を行うことができた。

② 学習指導

- ・主体性を持って多様な人々と協議して課題を発見し、解決策を見出していく「アクティブ・ラーニング」の視点にたった学習や生徒同士の教えあいや討議等さまざまな授業形態を工夫した授業展開に取り組み、生徒の学習意欲を高めることができた。
- ・生徒の実態やニーズに対応した学習到達目標や1時間ごとの授業のねらいを明確にしながら授業を実施した。また、習熟度別授業や少人数授業を通して基礎学力や体力の定着に取り組んだ。
- ・障害等特別な支援が必要な生徒に対して、状況に応じ対応するため「個別の教育支援計画」を策定し、生徒の成長を到達度評価だけでなく、個人内評価の観点から評価し、基礎学力の定着度を把握しながら個別指導に取り組んだ。
- ・基礎学力としての漢字の書き取りや一般教養的な知識習得に各教科で取り組み、ICT活用や興味・関心を高める教材を工夫した授業に取り組んだ。
- ・期末考査後の授業において補充学習を実施するために、計画的に補習・補講週間及び個人面談週間を設定し実施した。また、一部ではあるが、授業前や放課後に補習・補講等を実施し、学力の定着に努めた。
- ・各種検定試験により商業科目の学習へのモチベーションを高め、全員が3級以上取得を目標として指導に取り組んだ。また、高度な資格取得にも挑戦する生徒もいた。
- ・号令とチャイムスタート、私語・飲食等の禁止、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁等学校全体で取り組み、授業規律の確立に努め規範意識を高める指導を行った。

③ 生活指導

- ・全教職員で組織的に、生徒の基本的な生活習慣やマナーを確立させる指導に努め、「挨拶」と「時間を守る（遅刻、無断欠席）」ことについて学校全体で取り組んだ。
- ・クループエンカウンターで学校生活への意欲を引き出し、家庭と連携を活性化させ生徒の出席率を向上させた。中途退学者1名、転学者0名で、進級・卒業率を高めることができた。
- ・生徒の生活時間や交友関係等の把握を通して、生徒一人一人に対応したきめ細かい生活指導に取り組み問題行動をなくすよう取り組んだ。また、校内巡回など禁煙指導を徹底し、生活習慣の改善を図り健全育成を推進した。
- ・教育活動の予定や状況をホームページ（更新25回）や学校通信（毎月発行）等さまざまな伝達手段等で案内することで、保護者にも学校の活動への理解を得ながら生活指導面の充実を図った。
- ・セーフティ教室等を活用し、安全教育の推進を図った。ホームルームや集会における指導で登下校時の通学マナーや安全に行動できる資質や能力の習得に取り組んだ。
- ・拡大学年会で生徒の状況について情報交換を行い、共通理解を図り、問題行動やいじめ等について、全教職員が同じ方向で指導することができる体制を築いた。

④ 進路指導

- ・1年次より卒業までの4年間を見据えた進路指導を実施するためにキャリア教育全体計画を策定し、ハローワーク及び進路指導部・担任が連携して進路指導に取り組んだ。実社会で活躍するビジネスマンやジョブサポーターを講師として、生徒自身が卒業後に向けてキャリアについて考えるための進路学習を実施した。
- ・キャリアガイダンスにより、ビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成に取り組み、進路先選択能力や進路意識の育成に努めた。
- ・教育課程の特色を活かして資格取得の促進や、資格を活用した進路指導及び生徒一人一人の進路実現を図るために、一人一人に丁寧な就職指導に取り組んだ。7名が希望の会社に内定した。5名が未定だが今後も進路指導は卒業生の希望に応じて継続して行い、卒業し

た後も100%内定を目指して指導を続ける。

⑤ 特別活動

- ・生徒会を中心として生徒の主体的な学校行事運営を支援した。生徒一人一人の存在感と達成感を引き出すよう丁寧な指導に取り組み、充実した学校生活を推進したことで、行事への参加者は増え、学校への帰属意識、クラスの連帯感が高まった。
- ・年間ホームルーム指導計画を作り、生徒会や各委員会活動等の活動を活性化させた。また、ホームルームや学校行事をとおして、「助け合う心」「思いやる心」「役割を果たす責任感」等、豊かな人間性を育成し、社会性を育み、自主性・自律性を高めさせた。
- ・部活動では、活動日等を調整し、複数の部活に参加できるようにしたことで、部活参加率は高まった(延べ数では100%)。活動には必ず顧問が付くことで部活動を活性化させ、各種大会への参加を促進した。自転車競技部では、女子が全国大会で優勝した。

⑥ 安全・健康指導

- ・安全や健康に関する指導を徹底するため深川警察署より講師を迎え、薬物乱用防止教室やセーフティ教室において講演会を実施した。また地域との連携として、「自転車の安全な乗り方・ルールについて」スタントマンによる自転車安全教室を実施し、地域からも数名ではあるが参加があり、チューリップの球根を配布するなど交流することができた。
- ・各学級担任は、家庭やスクールカウンセラーと連携して生徒の実態を把握し、学校不応や問題行動の未然防止に努めた。
- ・環境及び校内美化のため、清掃やゴミ分別の指導に取り組んだ。
- ・給食時に食生活のマナーや食事を通じた人間関係の形成能力を身に付けさせるなど、食に関する指導を通して食育の指導を行った。

⑦ 広報・募集活動

- ・募集対策のプロジェクトチームにより、7月に「夏祭り」(5名参加)、11月に「秋祭り」(2名参加)と題して、地域の中学生及び保護者を対象に交流会を実施した。募集活動として教務部を中心に全教職員で区教委の交換便を活用し学校案内(冊子)を配布するとともに、学校説明会等の案内状送付や中学生訪問を行い、本校の教育活動のPRを行った。
- ・本校の教育活動の様子をタイムリーに、校門掲示板(定時制ニュース)、ホームページ等で紹介した。毎月、定時制通信を発行し、学校の時程や行事等の案内を行った。また、一部の担任によっては家庭への連絡プリントを作成し、本校の教育活動について周知した。
- ・地域や中学校に向けて、校門掲示板やホームページを活用して、授業公開、体験入学、その他募集活動の活性化に取り組んだ。

⑧ 図書・視聴覚教育

- ・図書室と連携した読書活動推進のための活動を行い、図書室の利用の促進を図った。教科と連携して図書室の利用及び読書習慣の定着を促進し、授業でも図書室を利用するようになった他、始業前や放課後に図書館を訪れる生徒が増えた。
- ・弥生祭(3月学校行事)で音楽鑑賞教室(チェロとピアノ演奏)を実施した他、映画鑑賞教室等の文化的な行事を実施し、校外教育活動の活性化を図った。授業中に発表を取り入れた指導を行うなど、教育活動全般を通じて言語活動を充実させ、教養と知識、技術の定着と生涯学習への基礎づくりに努めた。

⑨ 研究・研修その他

- ・教職員研修センター等の研修や長期休業日中の計画的な研修を通して、生徒指導力や教科指導力向上に取り組んだ。
- ・若手教員育成研修(2年次・3年次)や東京教師道場での授業研究や研究協議を活用し、また、プロジェクトチームによる校内研修を実施するなど授業力向上に取り組んだ。
- ・学校運営連絡協議会や生徒による授業評価結果を活用し、授業の改善を図り、生徒の学習に対する満足度を向上させた。

○数値目標の達成度（目標値 → 本年度結果）

- ① 学校運営…体罰等の不適切な指導：0（無し） → 0（無し）達成
- ② 学習指導（検定結果）
 - ・簿記検定3級以上取得者：
2年次70% → 60%、3年次90% → 58%、4年次100% → 92%
 - ・情報処理系検定3級以上取得者：
2年次90% → 70%、3年次100% → 83%、4年次100% → 75%
 - ・ワープロ検定3級以上取得者：
1年次80% → 90%達成、2年次85% → 60%、3年次90% → 75%、4年次100% → 67%
- ③ 生活指導…転・退学率：10%以内 → 2%達成（昨年7.1%）
- ④ 進路指導…ハローワーク（ジョブサポーター）との連携：20回 → 20回達成
4年生の進路決定率：80%以上（就職希望者内定100%） → 75%（内定78%）
- ⑤ 特別活動・部活動…学校行事出席率：70%以上 → 78%達成
部活動加入率：70%以上 → 57%（昨年69.2%）
部活動大会参加：5回 → 6回（練習試合含む）達成
- ⑥ 安全・健康指導…安全・健康に関する講演指導：10回以上 → 8回
- ⑦ 広報・募集活動…中学校訪問：40校以上 → 29校（昨年32校）
学校通信発行：10回 → 11回達成
授業公開：10名以上来校 → 9名
体験入学：10名以上参加 → 1名（昨年4名）
随時学校見学：5名以上見学 → 2名
- ⑧ 図書・視聴覚教育…図書不読率：40%以下 → 32%達成
- ⑨ 研究・研修その他…研究授業：7回以上実施 → 9回達成

2 次年度以降の課題と対応策

（1）学校運営

- ① 教育課程の改善
 - ・授業改善への取り組み推進により基礎基本の定着を図る。
 - ・習熟度別授業、少人数授業の実施により生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- ② 新学習指導要領への対応
 - ・本校定時制課程のグランドデザインを策定する。
 - ・新学習指導要領に対応できる教育課程の編成について調査結果を行う。

（2）学習指導

- ① 授業規律の確立
 - ・号令、チャイムスタートの実施によりメリハリをつける。
 - ・私語、飲食の禁止、携帯電話の使用厳禁等により規範意識を高める。
- ② 基礎的基本的な学力の育成
 - ・授業以外の学習指導（補習・補講や宿題等）について工夫し実施する。
 - ・基礎的基本的な学力の達成目標を定め、ドリル学習等学校全体で実施する。

（3）生活指導

- ① 基本的生活習慣の確立
 - ・家庭と連携した無断欠席及び遅刻指導の実施により、基本的生活習慣の改善を図る。
 - ・禁煙指導を徹底し、生活習慣の改善を図り健全育成を推進する。
- ② 発達障害等課題のある生徒への指導体制の確立
 - ・生徒情報を全教職員で共有し、一人一人に対応したきめ細かい生活指導を実施する。
 - ・家庭やスクールカウンセラーと連携し、生徒が持つ課題への事前的対応に取り組む。

（4）進路指導

- ① キャリア全体計画の確立
 - ・1年次より卒業までの4年間を見据えた全体計画を実施する。

- ・教育課程の特色を活かし、基本的な資格取得から高度資格取得を推進する。
- ② 就労経験による勤労観の育成
 - ・木場ハローワークと連携し、昼間の時間帯でのアルバイトを含め就労を奨励する。
 - ・働くことを通して、社会性の向上や人間関係能力の育成を図る。
- (5) 特別活動・部活動
 - ① 特別活動の充実
 - ・生徒会、委員会、部活動等を奨励し、充実した学校生活を推進する。
 - ・部活動加入率を向上させ、各種大会への参加を促進する。
 - ・校外活動について精査し、生徒が積極的に参加する学校行事を実施する。
 - ② 生徒会活動の充実
 - ・生徒会を中心とした生徒による主体的な学校行事の運営を支援する。
- (6) 安全・健康指導
 - ① 地域関係機関(警察・消防等)との連携
 - ・警察署と連携して薬物乱用防止教室等の内容を精選・改善し、指導の充実を図る。
 - ・消防署と連携して避難訓練等の内容を精選・改善し、指導の充実を図る。
 - ② 食育指導の充実
 - ・給食時のマナー指導や食育講話等を通して、健全な食習慣の充実を図る。
- (7) 広報・募集活動
 - ① 広報活動の推進
 - ・近隣中学校訪問、学校説明会、授業公開、入学体験を実施する。
 - ・学校 Web ページの随時更新、学校掲示板の活用(定時制ニュース等)を推進する。
 - ② 地域連携の拡充
 - ・授業公開他、セーフティ教室・薬物乱用防止教室等の地域への公開を継続実施する。
- (8) 図書・視聴覚指導
 - ① 図書室利用の促進
 - ・教科と連携して図書室の利用及び読書週間の定着を促進する。
 - ・推薦図書などを示し、読書月間等における読書を奨励し、図書不読率を低下させる。
- (9) その他
 - ① 中途退学者の防止
 - ・授業改善や家庭との連携等の指導により、中途退学者0を目指した教育活動を実施する。